

# 線形代数 (第17回)

## 17 1次独立と1次従属の定義と例

一般のベクトル空間において幾何学をやる為には、まずは「座標」の概念が必要になります。数ベクトル空間  $\mathbb{R}^2$  や  $\mathbb{R}^3$  の場合であれば、 $xy$  座標や  $xyz$  座標があります。  $\mathbb{R}^2$  の場合だと、2つの数ベクトル  $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$  と  $\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  がそれぞれ  $x$  座標、 $y$  座標の役割を果たします。例えば、平面の点  $P = (2, 3)$  であれば

$$\begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix} = 2 \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} + 3 \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

と表せます。座標とは、このように、点  $\begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$  を表すベクトルを、 $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}$  と  $\begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}$  とで書き表したときの係数のことに他なりません。この概念を一般のベクトル空間にも持ち込むことを考えます。

ベクトル空間  $V$  の要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$  が  $V$  の座標の役割を果たすのに必要な条件として、座標の表し方が1通りであることが挙げられます。3次元空間  $\mathbb{R}^3$  で、ある点の座標は  $(1, 1, 1)$  であり、かつ  $(2, -1, 3)$  でもあるというような事は起こりません。座標の表し方は1通りだからです。これを一般のベクトル空間  $V$  とその要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$  で考えてみると、以下の性質が必要です。

$$a_1\mathbf{u}_1 + a_2\mathbf{u}_2 = b_1\mathbf{u}_1 + b_2\mathbf{u}_2 \implies a_1 = b_1, a_2 = b_2$$

要するに、同じ点を2通りに表せないということです。上式は

$$(a_1 - b_1)\mathbf{u}_1 + (a_2 - b_2)\mathbf{u}_2 = \mathbf{0} \implies a_1 - b_1 = a_2 - b_2 = 0$$

と変形できます。つまり、 $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$  が

$$c_1\mathbf{u}_1 + c_2\mathbf{u}_2 = \mathbf{0} \implies c_1 = c_2 = 0$$

を満たす必要があります。これが次の定義の意味です。

**定義 17-1 (1 次独立と 1 次従属)**

(1) ベクトル空間  $V$  の要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  について,

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + \dots + c_n \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

を満たす実数  $c_1, c_2, \dots, c_n$  が  $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$  のみであるとき,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は 1 次独立であると言う.

(2) 逆に,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  が 1 次独立でないとき, すなわち,

$$c_1 \mathbf{u}_1 + c_2 \mathbf{u}_2 + \dots + c_n \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

を満たす実数  $c_1, c_2, \dots, c_n$  で  $c_1 = c_2 = \dots = c_n = 0$  以外のものが存在するとき,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は 1 次従属であると言う.

数ベクトル空間で例を確認しておきます.

**例題 17-1**

$\mathbb{R}^2$  の次の 2 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

[解答]

$$c_1 \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (c_1, c_2 \in \mathbb{R})$$

とする. これは連立方程式

$$\begin{cases} 2c_1 + c_2 = 0 \\ c_1 + c_2 = 0 \end{cases}$$

を意味し, その解は  $c_1 = c_2 = 0$  のみである. よって  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2$  は 1 次独立である.

□

**例題 17-2**

$\mathbb{R}^2$  の次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_3 = \begin{bmatrix} -1 \\ 5 \end{bmatrix}$$

[解答]

$$c_1 \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} + c_2 \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \end{bmatrix} + c_3 \begin{bmatrix} -1 \\ 5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする. これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + 3c_2 - c_3 = 0 \\ 2c_1 - c_2 + 5c_3 = 0 \end{cases} \quad (1)$$

を意味し,

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 0 & -7 & 7 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より, 解は  $c_1 = c_2 = c_3 = 0$  以外にも存在する (例えば,  $c_1 = -2, c_2 = 1, c_3 = 1$  など). よって  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \mathbf{u}_3$  は 1 次従属である.

□

[注意]  $A$  を  $m \times n$  行列としたとき, 連立方程式

$$A \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \end{bmatrix}$$

が自明でない解を持つ条件は  $\text{rank}(A) < n$  でした (定理 7-2 を参照). 例題 17-2 の場合だと,  $n = 3$  で, 上の基本変形から

$$\text{rank} \left( \begin{bmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 2 & -1 & 5 \end{bmatrix} \right) = 2 < 3$$

なので, (1) は自明でない解を持つことが分かります.

□

### 問題 17-1

(1)  $\mathbb{R}^2$  の次の 2 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 2 \end{bmatrix}$$

(2)  $\mathbb{R}^3$  の次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_3 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \\ 6 \end{bmatrix}$$

**問題 17-2**  $\mathbb{R}^2$  の次の 2 つのベクトルが 1 次従属のとき, 実数  $a$  の値を求めよ.

$$\mathbf{u}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{u}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ a \end{bmatrix}$$

次は多項式ベクトル空間の例を見ておきます.

**例題 17-3**

多項式ベクトル空間  $\mathbb{R}[x]_2$  において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + 2x + 1, \quad f_2(x) = x^2 - x + 1, \quad f_3(x) = 2x^2 + x + 1.$$

[解答]

$$c_1 \cdot f_1(x) + c_2 \cdot f_2(x) + c_3 \cdot f_3(x) = \mathbf{0} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする.

$$(\text{左辺}) = (c_1 + c_2 + 2c_3)x^2 + (2c_1 - c_2 + c_3)x + (c_1 + c_2 + c_3)$$

であるので, これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + c_2 + 2c_3 = 0 \\ 2c_1 - c_2 + c_3 = 0 \\ c_1 + c_2 + c_3 = 0 \end{cases}$$

を意味する.

$$\begin{aligned}
\begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 0 & -3 & -3 \\ 0 & 0 & -1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \\
&\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}
\end{aligned}$$

より, 解は  $c_1 = c_2 = c_3 = 0$  のみである. よって  $f_1(x), f_2(x), f_3(x)$  は 1 次独立である.

□

#### 例題 17-4

多項式ベクトル空間  $\mathbb{R}[x]_2$  において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + x + 1, \quad f_2(x) = x^2 + 2x + 3, \quad f_3(x) = x + 2.$$

[解答]

$$c_1 \cdot f_1(x) + c_2 \cdot f_2(x) + c_3 \cdot f_3(x) = \mathbf{0} \quad (c_1, c_2, c_3 \in \mathbb{R})$$

とする.

$$(\text{左辺}) = (c_1 + c_2)x^2 + (c_1 + 2c_2 + c_3)x + (c_1 + 3c_2 + 2c_3)$$

であるので, これは連立方程式

$$\begin{cases} c_1 + c_2 = 0 \\ c_1 + 2c_2 + c_3 = 0 \\ c_1 + 3c_2 + 2c_3 = 0 \end{cases}$$

を意味し,

$$\begin{aligned} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 3 & 2 \end{bmatrix} &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 2 & 2 \end{bmatrix} \\ &\longrightarrow \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

より, 解は  $c_1 = c_2 = c_3 = 0$  以外にも存在する (例えば,  $c_1 = 1, c_2 = -1, c_3 = 1$  など). よって  $f_1(x), f_2(x), f_3(x)$  は 1 次従属である.

□

**問題 17-3** 多項式ベクトル空間  $\mathbb{R}[x]_2$  において, 次の 3 つのベクトルは 1 次独立であるか?

$$f_1(x) = x^2 + 1, \quad f_2(x) = x^2 + x + 1, \quad f_3(x) = 2x + 1.$$

**問題 17-4** 2 次多項式  $f(x) \in \mathbb{R}[x]_2$  に対して,  $f(x), f'(x), f''(x)$  は 1 次独立であることを示せ.

**定義 17-2 (1 次結合と 1 次関係)**

(1) ベクトル空間  $V$  の要素  $v$  が,  $V$  の要素  $u_1, u_2, \dots, u_n$  を用いて

$$v = c_1 u_1 + c_2 u_2 + \dots + c_n u_n \quad (c_1, \dots, c_n \in \mathbb{R})$$

と書けるとき,  $v$  は  $u_1, \dots, u_n$  の 1 次結合で書けると言う.

(2) ベクトル空間  $V$  の要素  $u_1, u_2, \dots, u_n$  が

$$c_1 u_1 + c_2 u_2 + \dots + c_n u_n = \mathbf{0} \quad (c_1, \dots, c_n \in \mathbb{R}) \quad \dots (*)$$

をみたすとき, (\*) を  $u_1, u_2, \dots, u_n$  の 1 次関係と言う.

例えば,  $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$  は  $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  と  $\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$  の 1 次結合で書けます. なぜならば,

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} = \frac{3}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} - \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$$

と表せるからです. また,

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix} - \frac{3}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix} + \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$

は  $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} 1 \\ -1 \end{bmatrix}$  の 1 次関係です.

次に,  $\mathbb{R}[x]_2$  において考えます.  $f_1(x) = x^2 + x + 1$  は  $f_2(x) = x^2 + 2x + 3$  と  $f_3(x) = x + 2$  の 1 次結合で書けます. なぜなら,

$$f_1(x) = f_2(x) - f_3(x)$$

と表せるからです. また,  $f_1(x) - f_2(x) + f_3(x) = \mathbf{0}$  は  $f_1(x)$ ,  $f_2(x)$ ,  $f_3(x)$  の 1 次関係です.

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  が何であっても, 1 次関係は最低 1 個は必ず存在します. それは

$$0 \cdot \mathbf{u}_1 + \dots + 0 \cdot \mathbf{u}_n = \mathbf{0}$$

であり, これを **自明な 1 次関係** と呼びます. しかし, 自明でない 1 次関係は, いつでも存在するとは限りません. 1 次独立, 1 次従属の定義は次のようにも言い換えられます.

#### 定義 17-1 の言い換え

- (1)  $V$  の要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  の間に自明でない 1 次関係が存在しないならば,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は 1 次独立である.
- (2)  $V$  の要素  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  の間に自明でない 1 次関係が存在するならば,  $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  は 1 次従属である.

#### 問題 17-5

- (1)  $\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$  を  $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$  と  $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$  の 1 次結合で表せ.
- (2)  $\begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} 2 \\ 1 \end{bmatrix}$ ,  $\begin{bmatrix} 3 \\ 5 \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^2$  の自明でない 1 次関係を一つ求めよ.